



# ばすてる

男女共生を考える  
～お互いの理解～

# ONE TEAM

ご意見をお寄せください

「ばすてる」では、今後載せてもらいたい内容、今回の内容に対するご意見・ご感想、男女共同参画全般に関するご意見などをお待ちしています。また、編集員も募集しています。興味関心をお持ちの方、ぜひ参加してください。



## 蓮田市男女共生情報誌

発行／蓮田市役所総務部庶務課  
〒349-0193 蓮田市大字黒浜2799-1  
☎048-768-3111 内線296

特集

男女共同参画に関するアンケート  
女性活躍インタビュー

## プロローグ

男女共生を考える「ぱすてる」は、前回節目の20年、第20号の発行で、今までの歴史を振り返って、男女共生社会の意識の変化を感じました。そして、男性と女性が同じになることを目指すのではなく、各個人の個性と能力を活かして活躍する場面が増えてきているように思います。

今回は、男女が共生する社会がどこまでできているのか、お互いにどれだけ理解できているのかをテーマに、蓮田市で活躍する女性にインタビューと子育てでつながろうMiNiフェスタにてアンケート調査を行いました。



## 男女共同参画に関するアンケート

「子育てでつながろうMiNiフェスタ」に参加されている方々に、男女共同参画に関するアンケートを行ってみました。

ご協力いただいた方の性別や年齢等は、次のとおりです。

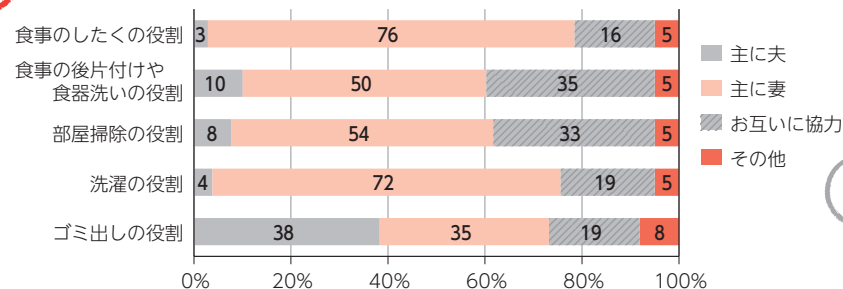
性別 ▶	男性 95名	女性 114名	計 209名			
年齢 ▶	20歳代 14名	30歳代 95名	40歳代 61名	50歳代 21名	60歳代 13名	70歳以上 5名
職業 ▶	正社員・ 正職員 109名	自営業・自由業・ 家事手伝い 16名	パート・ アルバイト 26名	専業 主婦・主夫 51名	その他 7名	

今、様々な場面で男女共同参画社会への取組が行われておりますが、皆さんはどのようなことに男女共同や平等を感じ、また、どのようなことに平等ではないと感じているのか、次のような質問を行ってそれぞれ回答について検討してみました。

### 質問 1

## 家庭生活上のことは誰がやっていますか？

※この質問は既婚者への質問です。



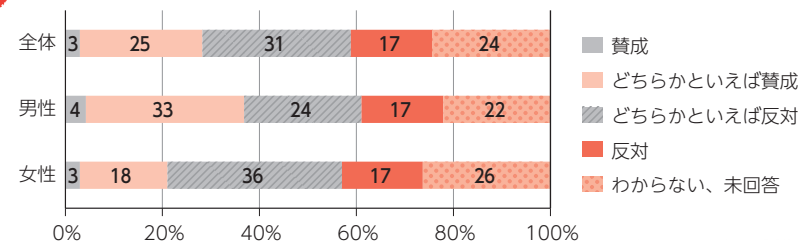
今回アンケート項目とした家庭上のいずれの役割においても、女性(妻)がメインで行っている家庭が多いようです。一方で、食事の後片付けや部屋掃除などの役割で「お互いに協力」している家庭も見受けられます。



また、男性(夫)の役割としては、ゴミ出しを任されている家庭が多いようです。今回のアンケート項目には無かった「子どもとお風呂(遊ぶこと)」などが夫の役割なのでしょうか…。

### 質問 2

## 「男は外で働き、女は家庭を守るべき」と思いますか？



### 「男は外で働き、女は家庭を守るべき」

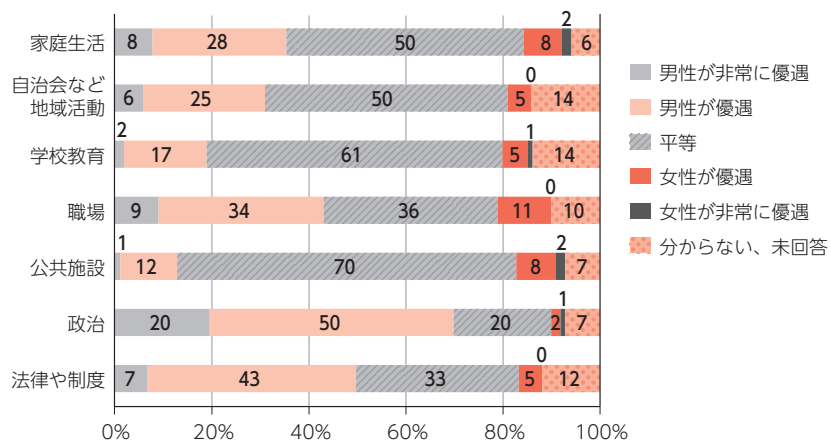
この考えに反対する意見が多くありましたが、男性の考えと女性の考えに少し差がある結果となりました。

「外で働きたい」と考える女性に対し、「男が外で働き、女は家庭を守ってほしい。」と考える男性…。今のところ、男女の考えに少し違いもあるようです。



質問  
3-1

次の社会の中で、男女の地位は平等になっていると思いますか？



家庭生活、地域活動、学校教育や公共施設においては、多くの方が男女の地位が平等になっていると感じています。

一方で、**職場、政治、法律や制度においては、男性が優遇されていると感じている方が多い**ようです。今、日本では女性の政治参加に力を入れています、政治分野における男女共同参画の実感は、これからののでしょうか。



全体としては「平等」という意見が多くありましたが、男女別では、平等と思っている人が、男性で58%に対して女性は43%など男女の意見の差が出ました。

また、「**男性が優遇されている**」あるいは、「**男性が非常に優遇されている**」への女性の意見が多いことから、**家庭生活では男女平等と感じていない女性が多くいる**ことが分かりました。



男女共同参画の意識は、おそらく昔に比べて大きく変わってきているかと思えます。

しかし、今回のアンケート結果では、「男は外で働き、女は家庭を守るべきという考え」や、「家庭生活における男女の地位の平等」において、男性と女性で回答結果に差を感じました。

子育てでつながろうMiniフェスタについて

今年で第17回を迎えた「子育てでつながろうMiniフェスタ」、このイベントは総合市民体育館パルシーで年に1回開催しています。

赤ちゃんから小学生まで親子で楽しめるたくさんの子育て応援プログラムがあり、思い切り体を使ったり、親子で学んだり、色々な体験で子どもの成長や豊かな表情を新発見できる楽しいひとときを提供するイベントです。

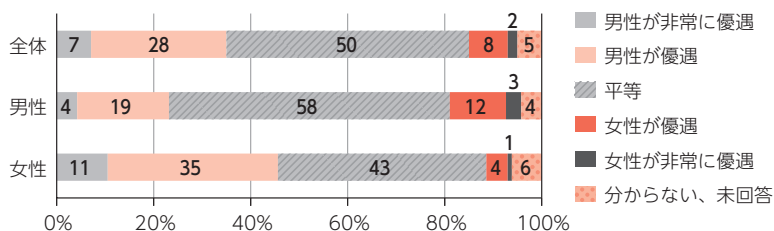


また、参加者だけでなくフェスタに関わる全てのスタッフも幸せなひとときを共有し、子育て支援者同士のつながりができます。私達は、そのつながりを大切に活動しています。

子育てでつながろうMiniフェスタ実行委員会より

質問  
3-2

男女の地位は平等になっていると思いますか？の質問のうち、「家庭生活では」について、男女別の回答状況



## 女性活躍インタビュー

「彩々楽」

マネージャー

栗原 久美子さん



**Q**：どんなお仕事をされているのでしょうか。

**A**：日本料理屋で接客をやらせていただいております。きっかけは主人が跡取りであり、お店を継ぐことが本人の意思でしたので、この蓮田で彩々楽を始めさせていただきます。

**Q**：仕事をしている中で大変だったこと、辛かったことはありますか。

**A**：私は警察官の家庭で育ち、全く商売の経験が無いゼロからのスタートだったので、そこがまず大変だったかなと思います。ちょうど娘が4歳の時この店を始めたので、母親としての自分と、女将さんとしての自分、その葛藤がありました。精神的な面が一番きつかったと思います。

**Q**：そういうことはどのようにして解

消されたのですか。

**A**：子育てに関しては、私の母にお願いをして同居してもらいました。泣きじゃくる娘を置きざりにするような、そんな気持ちでしたが、心を鬼にして仕事をするしかありませんでした。専業主婦の実母と、商売人の義理の母に助けをもらいながら上手く自分の気持ちを切り替えました。両方の母がいなかったらできなかったんじゃないかと思えますね。

**Q**：仕事で嬉しいこと、充実感を覚えることはありますか。

**A**：やはり、お客様から「ありがとう」と言われると励まされますね。お客様から褒められたり、怒られたりするようなコミュニケーションが自分の糧になります。ただ、達成感や充実感はなかなか飲食業では難しいですが、アルバ

イトの子達にもやり甲斐や達成感を感じて帰宅させたいと思っています。

**Q**：女性が働くということ、男女共同参画についてどう思いますか。

**A**：うちはまさに当てはまる職種です。昭和の頃は板前は男の職場でしたが、この業界でも女の子の進出は増えています。ただ、続かないという声は聞きますね。重たいものを持ったり、長時間労働や仕事に制限があります。それなりの覚悟を持って入ってきた女の子にどうサポートできるか。産休や育休もちゃんと取ってもらい、落ちついたら帰っておいでと気軽に声をかけてます。

**Q**：これから女性が活躍するためには何が必要だと思いますか。

**A**：やはり周りの理解ですかね。家庭を持ってる方が仕事に出ようとすんなら家族の協力、お子さんの協

力が必要になってくるでしょう。働く現場の方も、この人だったらここまで頑張ってくれたら良しとするような、人それぞれの対応が求められます。

**Q**：働く女性は何が必要だと思いますか。

**A**：いろんな意味で覚悟が必要ですよ。働くってことはそういうことなので。どういう目的で働くのかを自覚すること。働こうと思ったお店に事前に行ってみることも大事ですね。

**Q**：パートナーに望むことはありますか。

**A**：これは言ったら止まらなくなりませけど(笑)。他人だったら割り切れることもちょっと夫婦だと違ってきますよね。「お互いを思いやることを忘れず、お客様のためにこれからも頑張っていきましょう。」



### 彩々楽

所在地 埼玉県蓮田市本町7番1号

電話 048-768-0123

#### 営業時間

昼 11:30 ~ (14:00L.O)

夜 17:00 ~ 23:00 (22:00L.O)

#### 定休日

月曜日(月曜日祝日の場合は営業。翌日代休)

<https://sasala.info/>

## 女性活躍インタビュー

キュイキュイ  
「QuiQui渋谷農園」

店主 渋谷しょうこさん



**Q**：どのようなお仕事をされているのでしょうか。

**A**：農園で採れたものを加工して販売したり、イベントでクワイを販売したり、栗があったら栗を販売したり、最近だと、私の出身の北海道の帯広の豚丼のたれを自分で作って販売もしています。

**Q**：結婚して北海道から来たのですか。

**A**：よくあるパターンですけど、東京に憧れてということで北海道から来ました。東京で仕事をしていたらなんか子どもが欲しくなって、友達と「お見合いしよう」とか言って旦那と出会いました。

東京では、南青山の天然木の家具店で働いていました。今のお店は元々農機具小屋だったのでですけど、家具店の経験も生かして自分でお店にリフォームしました。

**Q**：お仕事を始める時、家族の反応は。

**A**：当時は、家族中、親戚中が「心配」という雰囲気でした。その頃は女性が起業して働くという時代では無かったので、今から8年前ですからね。ただ、起業と同時に、商工会に加入したらその仲間が色々優しく支えてくれてとても助かりました。

**Q**：どのようなお客さんが来るのですか。

**A**：地元密着って感じです。フェイスブックやツイッター、インスタを見て来てくれるお客さんもいます。フェイスブックやツイッターは毎日、インスタは新商品が出るたびに更新しています。

**Q**：どんなことを載せているのですか。

**A**：お客さんが興味引くかなと思いつつながら、その日に採れるものとか、農家は仕事と生活が一緒だから、そんな生活も含めて載せています。

**Q**：お子さんたちはお母さんがお店をやっていることをどう感じていますか。

**A**：以前は、「お母さんはお店始めなければ良かったのに」って…。私も子どもがすごく好きでいつも遊んでいたから、それが一切、土日も遊べなくなって、当時はとても胸が痛かったです。それでも家に帰って笑顔だけは作ろうと思って頑張っていました。そんな子どもも、今ではSNSで私の活動を見て、「いいね」してくれたりします。

**Q**：ちょっと自慢のお母さんって感じになってきたのですかね。

**A**：自慢では無いと思うのですがね(笑)。ただ、笑顔ってすごく大切だと思って、スマイルトレーナーの資格を取りました。これからは、介護施設とかで働いている人、そんな場所でスマイルトレーナーもやりたいなと思っています。

**Q**：この忙しい状況を抱えながら、まだ余裕があるのですね。

**A**：小さい時から社会に貢献出来たらいいなってずっと思っていました。たまたま私の夢が看護師だったので、今はそれを結び付けているだけです。社会に貢献できることなら何でもいいんですよね。

**Q**：これから女性が活躍する社会になるためには、何が必要だと思いますか。

**A**：私が思うに、熱意しかないです、すべては。あとは好きなことをやることですかね、やっぱり。私も経営して強くなったと思います。

**Q**：パートナーに望むことはありますか。

**A**：主人には渋谷農園を盛り上げて頑張ってもらいたいです。応援しています。



### QuiQui 渋谷農園

所在地 蓮田市上平野640-1

電話 048-795-8184

営業時間

10:00~15:00

定休日

月曜日(不定休あり)

<https://qui2.info/>



## 編集員感想

石井

男性も女性もやりたい事・やりたくない事、得意な事・不得意な事があり、理解し合うことは難しいけれど思いやりをもって生活できれば家庭での男女の地位は平等と思えるのでは。お互いを尊重できることが男女共生なんだと思いました。

石黒

アンケートにより、男女共生に対する意識の変化をつくづく感じました。根本的な男女の違いを認めた上での男女平等。協力し合おうという気持ち。そして何よりも大切なのはお互いを理解し合うことだと思いました。

小林

アンケート結果で家庭生活では平等ではなく男女が共同して足りないところを補って生活している事がわかりました。

その件については個人の能力を発揮できる小さな社会が家庭にあると思います。

酒井

今回は彩々楽さんの取材を担当。仕事を始めた時の葛藤は周りの方々の協力で乗り越えられたと笑顔でお話する姿が印象的でした。ご家族やスタッフと共に気持ちよく働ける環境をという前向きな考え方は男女共生の理想だと思いました。

小森

今回アンケートや取材をさせて頂き自分と比較すると反省しなくてはいけないと多々思いました。女性がやる事では無く男性も進んで協力しなくてはいけないと感じました。

菅野

男性、女性が「協力する」ことだけでなく、お互いを認め合い、尊重して、それぞれの道を頑張ることも、女性の社会進出において、精神的にも大切なことなのだ、と感じました。

添野

今回のアンケートは、子ども向けイベントなので30～40歳代の方が主な対象となりましたが、男女とも社会や政治についてはまだ男性が優遇されているとされている方が多いようです。また、家庭生活においてはほとんどの家庭で女性の役割が多い中、お互いに協力してる部分もあり、時代と共に少しずつ変わって来ている様に思えました。

高沢

アンケートをお願いした若いご夫婦の多くが、家庭の中の役割分担等をしっかりと話し合っていて素晴らしいなと思いました。この世代の人達が、社会や会社の中で牽引する立場になったときには、男女共生社会は進化を遂げているのだろうと思いました。



時代の変化とともに『男女共生社会のあり方』についての考え方も変化が見られ、特に若い年齢層の人の考え方は、明らかに変わって来ていると感じられます。

では男女共生的「理想の家庭」とはどんなものなのでしょうか。今まで、男女共生について何年も携わってきたにも関わらず、なかなか腑に落ちるような考えに至ることはありませんでした。しかし、ある女性医師の「そもそも男と女は違うのよ。」との言葉をテレビで見て、1つの考えに至りました。

人は千差万別であり「理想の家庭」の形を社会から押し付けられるものではなく、互いを理解し、納得して、落ち着いて生活できる家庭が「理想の家庭」ではないのか。このことと、職場環境や社会全体が、男性、女性の性に因る差別がない、性のバリアフリーを実現した社会を目指すことは全く別問題であり、同じ次元で議論されるべきものではない。ただ、家庭においても社会においても「お互いの理解」から議論が始まった時に初めて、男女共生の目指すべき道が見えてくるのではないのか。

皆さんはどの様にお考えになられますか。



ばすてる編集員



編集後記

ばすてる編集員になり今年で2年となりました。

今回、子育てでつながろうMiNiフェスタでのアンケートや店舗経営をされている女性の方へのインタビューを聞いて、一人一人の視点によって男女共生の考え方に違いがあると感じました。

これから「ばすてる」も様々な視点から男女共生について取り組んでいければと思います。最後になりますが、今回の「ばすてる」を制作するにあたりご協力頂いた皆様、ありがとうございました。

(T.S)



(左上から)石井文枝 酒井めぐみ 石黒さおり 菅野由紀子  
(左下から)小森豊政 添野隆行 高沢秀樹 小林謙二